

新指定文化財紹介



名称：大内沢区有文書

大内沢地区に伝わる近世から近・現代の資料で大・小二つのタンスに収納され、現在は和紙の里の収蔵庫に保管されている。資料は近世64点（16％）と近・現代資料332点（84％）の総点数396点である。この資料は、全国的に町村合併等で行政文書は散逸し、残っている資料も断片的なものが多い。点数的に多くはないが、起源は名主引継ぎ文書であり明治以降は大字惣代が保管してきたものである。大内沢地区にとって大切な資料と認識され保存されてきた歴史がある。地区の歴史を明らかにする上で貴重な資料である。

近世資料では租税関係の年貢割付・皆済が37点と多く、幕府直轄地（御料）支配下のもので、延宝5年（1677）の割付が最も古い。土地関係では明治3年写しの寛文8年（1668）の「秩父郡玉川領大川原内大内沢御縄打水帳」（1冊）がある。

五人組帳は、寛政7年、文化12年、安政5年のものがある。また、嘉永6年の村絵図（彩色）からは当時の村落景観が理解できる。

近・現代資料は8割を超え、特に多いのが土地関係（165点）と寺社関係（91点）である。土地関係は地租改正事業などに関するもので、測量図（簿）・地引帳等がある。寺社関係は社寺明細帳や由緒書、大内神社の社掌や高円寺・正善寺の住職に関する資料がある。特に大内神社の収支に関する資料が26点と多く、明治43年から断続的であるが大正14年まで残っている。

水利・土地関係では、昭和恐慌で困窮する農民に就労の機会を与え農村経済の活性化を図る目的で全国に行われた救済土木事業の一環として、大内沢村で実施した槻川熊谷線の道路改修工事に関する資料(昭和8年)がある。

この他に、大字費取立帳（明治24～36年）7冊、共有財産控（大正14年）、大内沢規約（昭和11年）、共有地の小作金や貸付等、大内沢村（地区）の行政運営を理解する上で欠かせない資料もある。

大内沢区有文書（396点）

近・現代資料（64点） 近・現代資料（332点）

支配	8
土地	9
租税	37
村況	3
戸口・身分	3
災害・救恤	2
商業・金融	2

町村制	19
寺社	91
戸籍	3
軍事・消防・警察	3
土地	165
租税	5
水利・土木	22
農林業	4
教育・文化	9
民生・衛生	1
雑	5

